

標高3196㍎、遠くアフガニスタン、インド、ネパールから続く青蔵高原北端に、雲の上に広がる塩湖がある。面積5694平方㍎、周囲360㍎におよぶ。人はこの湖を「天空のサファイア」と呼ぶ。穏やかな水面は、天上に広がる空を映して青く、そして北に位置する山脈の頂を映して青く白く輝く。あたりは、高原性大陸気候で雨は少なく年平均気温はマイナス4度に達する。

以前、書いた本(注1)の序章をこの湖から始めたことがある。毎年やって来る何百万羽の渡り鳥。その渡り鳥にある年、異変が起きた。春が来ても北を指して飛び立つことなく湖上に漂い続けた。やがて渡り鳥たちが死に、そ



やまもと たろう  
山本 太郎

満天の星

の出来事の最初の発見者となった、という話である。

いつか訪ねてみたいと思っていた。その機会に恵まれた。夜、空にはこぼれ落ちそうな星が輝いていた。そんななかで聞いた一人の中国人の話。日本に私費留学した当初、金がなく、街の酒店で配達のアルバイトをしていた。仕事が終わるのは、いつも深夜。家路を歩く傍らに1台のラジオ。ラジオから

ラジオは「満天の星」と告げた。そのラジオ放送(注2)がその時代の彼を支えてくれたという。

青海民族大学にはチベット語で日本語を学ぶ学生が毎年10人ほどいる。3年間、青海省で日本語を学び、1年間、日本に留学をする。帰国後の就職は、英語学科やアラビア語学科に比べて、比較にならないほど厳しいという。それでも、毎年何人かのチベット人が日本語を学んでいる。日本語で夢を語る彼らの上に満天の星が輝かんことを!

の死が人々によって発見される。古来、湖とその周辺の草原を生活の糧として暮らしてきた遊牧民たちは世界を変えることになったこ

は「満天の星をいたたく、果てしない光の海」という深く落ち着いた声が聞こえてきた。雨の日も、雪の日も。空に一点の星さえなくても、

(注1) 「新型インフルエンザ 世界がふるえる日」(岩波新書)  
(注2) 番組名「ジェット・ストリーム」。1967年放送開始。  
(長崎大学熱帯医学研究所教授)